YUI News Letter

2019年6月 vol.45

認定特定非営利活動法人 女性のスペース 結 ゆい

もくじ

- 巻頭言 …… 1
- 「学童・保育園後のひとり留守番を解消する居場所づくり事業」とは・寺子屋「ゆい」（学習支援事業） …… 2
  子どもアクタープログラム …… 3
- 男女共同参画における女性相談、とりわけジェンダーの視点を大事に …… 4
- 女性の自立支援ってなに？ …… 5
- 2018年度 事業報告・収支決算報告 …… 6
- 寄付のお願いと活動日誌 …… 8

日頃より「結」の活動にご協力頂き、ありがとうございます。

昨年11月に念願の認定ＮＰＯ法人格を取得し、今年度も女性と子どものための支援を中心に取り組んでいます。埼玉県と中野区に拠点をおき、それぞれの事業に関わるメンバーが活動しています。引き続き会員の皆様、関係者の皆様のご理解ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

「夢を貧困に、つぶさせない」ための事業を開始しました

「結」は、今年度「子供の未来応援基金」の「第３回未来応援ネットワーク事業」の支援による事業に取り組みます。「子供の未来応援基金」は、「夢を、貧困につぶさせない」というスローガンのもと、全国的な「子供の貧困対策」を推進するための基金で、「子供の未来応援国民運動推進事務局」（内閣府・文部科学省・厚生労働省・独立行政法人福祉医療機構）が運営しています。

結は昨年９月、この「未来応援ネットワーク事業」に「学童・保育園後のひとり留守番を解消する居場所づくり事業」を申請し、今年１月に採択が伝えられました。申請書には、事業の目的は以下のように書かれています。

子どもの貧困の「負の連鎖を断ち切る」ためには親の所得格差による子どもの教育格差（学力格差）をなくすことが課題であると言われています。実際にシェルターに同伴してくる子どもたちと接し、学習する力があまり備わっていない事に気づかされます。学習能力の形成には幼い頃から周りの大人の手助けや文化的環境（例えば「本に触れる機会」）を作り出すことが必要です。しかしながら、現状では、夕方６時以降に親が帰宅する割合が、両親のいる世帯では３割程度、母子家庭では５割、父子家庭では８割です。こうした子どもたちが安心して宿題をしたり、友だちとおしゃべりをしたりできる居場所づくりを本事業ではめざします。

2.3ページではこうした目的に対する実際の「結」の取り組みをご紹介します。